

No. 1362

紅一点、吉川3位入賞

— 中日スポーツ杯争奪 —

中日スポーツ杯争奪「'80 鈴鹿シルバーカップ自動車レース」第一戦は2月17日から三重県の鈴鹿サーキット国際レーシングコースで150台が参加して開催されました。シルバーカップレースはことし1年間に合計9戦のシリーズで得点を争いますが将来のトップレーサーをめざす新人の登竜門だけに新人レーサーは必死。話題はFL-550クラスにエントリーしている日本でただ一人の女性フォーミュラカー・レーサーの吉川とみ子さん。スタートから快調にとぼし並いる男性レーサーを振り切り三位に入賞。集った1万8千のファンから拍手が送られました。

絵にしたシベリア抑留

— 東京・東久留米 —

終戦直後シベリアに抑留された体験を描いたスケッチ。東京は東久留米市。この町に住む勝山俊一さん67才。勝山さんは終戦と同時にソ連の捕虜となりシベリアの町エラブカで2年間の抑留生活を送った。この体験を勝山さんはこのほどスケッチ集にして出版することになった抑留時代デッサンの心得のあった勝山さんは過酷な労働のあい間を見ては収容所の仲間やエラブカの風景を描き続けた。紙はもちろんなく刻みたばこの包み紙や拾った新聞の余白を張り合わせて利用したという。エラブカには約1万人が抑留されていた。厳しい寒さと重労働で多くの仲間が死んでいったという。勝山さんはこの悲しい現実をしたためたスケッチを監視の目をかいくぐって持ち帰った。エラブカの仲間は東京だけでも500人がいる。勝山さんはそのうち何人かを訪ね。当時の様子を細かく聞いた。スケッチ集を出版することについて勝山さんは「人生の一コマとして残しておきたいまた子供たちにもこの事実を伝えたい」と語る。制作ははじまった33年も前のスケッチをもとに勝山さんはできるだけ正確な再現に努めた。時には自分が軍隊時代着用していた軍服を着てみることもあった。そして2ヶ月、スケッチ集はでき上がった。ぶ厚いスケッチ集に納められた絵は48枚。そのどれもが苦しい抑留生活を語りかけている。